

研修参加・ドキュメンテーション実施園

＜さくら保育園＞

公開保育について

	公開保育に参加して学んだこと	→	課題・今後に向けて
保育の環境	自主的に取り組める環境 環境・自然・生き物・本物の器具		園内の環境改善 園庭の環境改善 自然物・本物を取り入れる
子どもの姿	置かれた環境のものを使って遊び込んでいる 色々な興味を持っている		子どもの活動を継続していく 設定などの取り組みを減らし 主体となる活動を増やす
保育者・教員の子どもへのかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)	子どもを見守り、取り組みを認める 活動が広がる援助・声かけ		肯定的に取り組みを認め 一人一人の発達をとらえる
その他(園全体、保護者他)	保育士・園長先生ともに主体的な活動について学んでいる		保育士・園長ともに、たくさん話し合いをもつ

ドキュメンテーションについて

	学んだこと	→	課題・今後に向けて
ドキュメンテーションの研修に参加して	遊びの中で、子どもが何に興味を持ち何を感じているのかを保育士が読み取り肯定的な声かけを行って行く		一人一人が遊び込める環境づくり
ドキュメンテーションを書いて	子どもの発達・感じていることに注目し、可視化を心掛けた		主体的な活動をドキュメンテーションやお便りにし、発信していく



積み木で遊んでいた4歳児数名がドミノのような迷路作りが始まりました。最初は保育室を使っていましたが、だんだんと狭くなってきたので、一人の提案により保育室を飛び出し廊下まで伸びていきました。

それでも収まらず、近くのプールまで入っていきました。積み木で遊んでいた子どもたちも数名から、ドンドン参加者が増えていきました。積み木を運ぶ役・並べる役・直す役・が子どもたちの間で決まっていき、最後にはクラスのほとんどが迷路作りに参加していきました。

自然発生的に始まった迷路作り。予想を超えた展開に戸惑いもありましたが、子どもたちの発想を大切にしながらドキュメンテーションの作成に取り組みました。

まだまだ言葉や構成に不十分な点もありますが、今後も保育の可視化に取り組めていけたらと思います。

＜平保育園＞

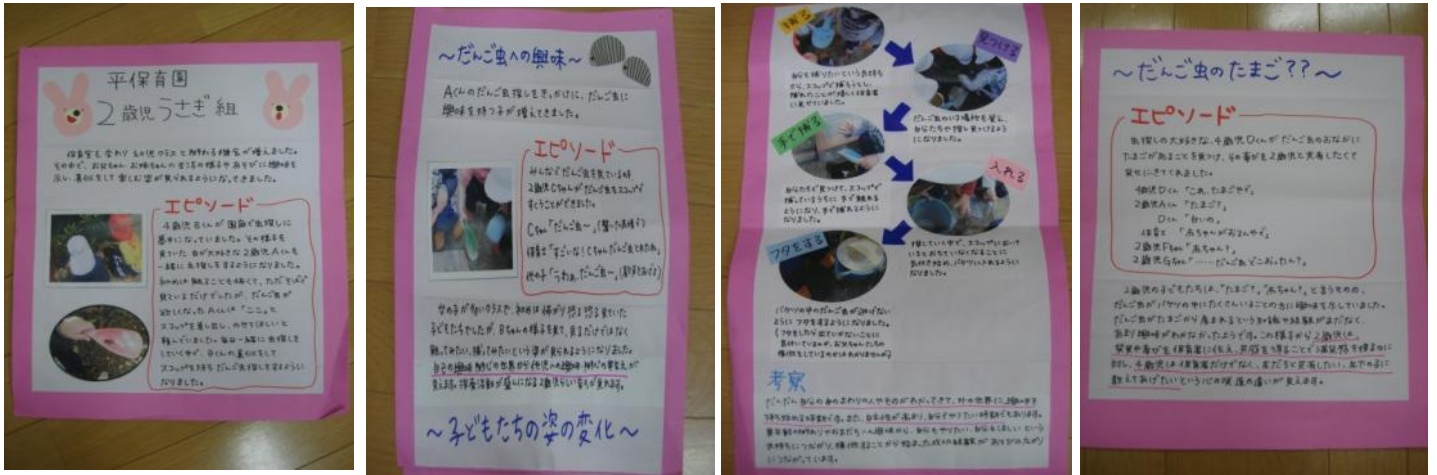
公開保育について

	公開保育に参加して学んだこと	課題・今後に向けて
保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが使いやすいような位置に制作の材料や素材が おいてあり、好きな遊びを遊び込める環境は大事だと 感じた。 ○楽しく遊べたり、興味がわくような雰囲気・環境作りが 良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部屋に置くスペースがないので、 環境の整備が課題だが、少しでも 学んだことを活かせるように環境 作りを工夫していく。
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のしたい遊びに夢中で遊び込んでいたのが 良かった。 ○道具の使い方を大きいクラスの子が小さいクラスの子に 教えてあげる姿もあり、異年齢の関わりりの良さを 知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動が単発になりがちなので、 繋がりのある活動をしていきたい。 ○子どもの発想を大事にし、好きな 遊びを自分で見つけて生き生きと 遊べるよう関わっていく。
保育者・教員の子どもへのかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> ○保育士はあまり声を掛けずに見守る姿が見られ、 子どものつぶやき・発言にしっかり耳を傾け、まわりに 広げていた。 ○肯定の反応が多かったように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育士が主になってしまうことが多いので、結果にとらわれず過程 に目を向けていく。 ○一人一人の個性を認め、子ども の思い・発見を尊重していく。
その他(園全体、保護者他)	<ul style="list-style-type: none"> ○行事の見直しをされ、子ども主体で行事内容を 設定していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育についてもっと保護者に伝え 理解を深めていく。 ○行事内容・意図の見直しをしてい く。

ドキュメンテーションについて

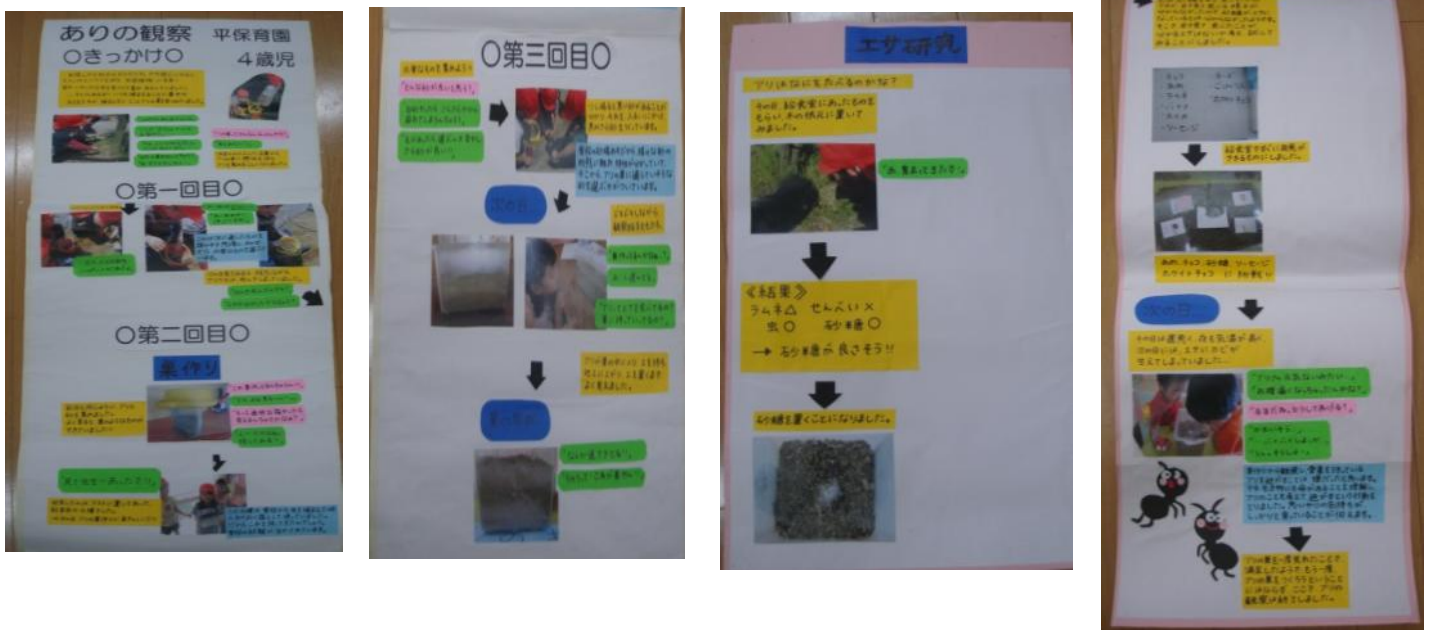
	学んだこと	課題・今後に向けて
ドキュメンテーションの研修に参加して	<ul style="list-style-type: none"> ○他園のドキュメンテーションを見る事で、どのような事に 気を付けて書いたら良いのか、書き方など分かりやすく 教えてもらった。 ○視点も様々で面白かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まだまだ保育にドキュメンテーショ ンが取り入れられていないので、 学んだことを意識して、少しずつ 取り入れていきたい。
ドキュメンテーションを書いて	<ul style="list-style-type: none"> ○何度作ってもまだ難しいが、書いて気付くこともあり、 今の子ども達の姿や様子は保護者の方には、分かり やすく伝わるのかなと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あまり考えすぎずに簡潔にまと め、分かりやすく伝えていく。

◎2歳児 ～だんご虫の興味～



一人の子をきっかけに虫探しをする子が増えました。初めは、触れることも怖かった子どもたちも一人が触れるようになると、『ぼくも、わたしも』と次々に触り捕まえられるようになりました。どうしたら逃げずに持っていけるかも子どもたちなりに工夫していました。

◎4歳児 ～ありの観察～



虫探しが大好きで、よく虫を見つけて集めていた子どもたち。今回、ありを飼い、巣を作る姿を見ていくことで愛着ができ、また、虫にも命があることを理解することができました。

最後には、弱ってしまったありたちを見て、『かわいそう』と感じ、逃してあげることになりました。

また、一度巣を見たことで満足し、ありの生態への興味や探究は見られませんでした。しかし、それも4歳児らしい姿だと思いました。

＜なかずじ保育園＞

公開保育について

	公開保育に参加して学んだこと	課題・今後に向けて
保育の環境	子どもたちが自分で考えて遊びを選択したり、自分達で作り出していくことが出来るようにすることが大切で、そのためには保育士が柔軟に対応し、子どもへの働きかけ次第でたくさんの気づきが発見できることを知った。	今子どもたちが何に興味や関心を持っているかを感じ、その遊びが広がるような環境を整えていくことが必要だと思う。
子どもの姿	保育者が与えるのではなく子どもたちが考え遊び、子どもたち自身から、また遊びたいという意識が伝わってきた。 五感を使い遊びこめていたように思う。	子ども同士のかかわりを大切にし、子どもからの声や行動を見守りながら一緒に活動し、共感できる関係作りを心がけたい。
保育者・教員の子どものかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)	保育士主導を控え子ども同士のかかわりを見守り、しっかり受け止めその時の子どもの思いを大切にしておられた。	
その他(園全体、保護者他)	職員全体が共通認識を持ち、保育に取り組んでいくことが大切だと感じた。	保育士の意識が変わることにより、保育が変わり子どもの動きも変わっていくが、行事等に関しての保護者の意識を変えるには、時間が必要に感じる

ドキュメンテーションについて

	学んだこと	課題・今後に向けて
ドキュメンテーションの研修に参加して	教育的意図、各年齢に応じた発達の特徴、子どもの育ちや気づき、学びを入れながら、子どもたちのありのままの姿を保護者に伝える事が大切だと学んだ。	子どもの姿や言葉にも耳を傾けて行こうと思う。 子どもの発達をおさえ、5領域を意識して書きたいと思う。
ドキュメンテーションを書いて	ドキュメンテーションを通して子どもの思いや行動に改めて気づかせられ関わりを考えるきっかけとなり、職員の互いの視点や考え方に触れることが出来た。	ドキュメンテーションで伝えたい子どもの育ちはしっかりと入れながらも、見やすさや、伝えたいことを簡潔に書くなど、ドキュメンテーションを書き続けていくための工夫などを勉強していきたい。



秋の自然に触れて遊ぶ 秋の自然を見つけたよりすぐみ (2才児)

秋になり散歩に出かける機会が増えました。進級したころは年長児や年中児の子どもたちに散歩に連れて行ってもらうというような状態でした。しかし沢山の経験を積み秋になると2才児だけで手をつないで歩けるようになり、近くの農道や真名井の清水まで散歩に行けるようになりました。

そんな秋の散歩の中で、1人が柿を見つけると他の子も同じように興味や関心を持ったり、ススキやくつき虫を見つけても、保育士が少し声をかけるだけで、子どもたちで遊びを考えたり、教え合ったりと、楽しみがどんどん広がっていくのがわかりました。

＜八雲保育園＞

公開保育について

	公開保育に参加して学んだこと → 課題・今後に向けて
保育の環境	<p>中保育所・岡田保育園・永福保育園・タンポポハウス・東山保育園・朝来幼稚園 様 舞鶴がいちがんとあって、子ども主体の「共有型」保育に向かい、進もうとしています。</p> <p>公開保育に参加しながら、各園の「保育を変えよう」とする工夫や、戸惑いなど伝わり、敬意をもって見せて頂きました。又、その際の木下先生、北野先生のご助言は大変勉強になり、個々の保育理解を高めたり、自園に持ち帰り、研修する機会にもなりました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>又、各園沢山のドキュメンテーションを拝見し、表に見えないご苦労に頭が下がります。</p>
子どもの姿	<p>保育現場は、早番、遅番があったり、入れ替わってしか出会えない職員があったりします。その中で、思いを共有して、あれだけの環境を準備したり、あれだけのドキュメンテーションを作成された事。すばらしいです。</p> <p>子どもの姿をどのように共有し、どのように時間を作って作成されたのか、機会があれば教えて頂きたいと思います。</p> <p>下記は本園の職員の公開保育の感想です。</p> <p>見る目が養われていない事も含め、勝手な感想をご容赦下さい。</p>
保育者・教員の子どものかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)	<p>○複数の環境が準備されており、子ども達の主体性を重んじる意識を感じた。</p> <p>○より充実した環境設定・教材・教具について共に見直していきたい。</p> <p>○子どもの体験からの気づきを大切に、今後の保育のあり方を共に考えていきたい。</p> <p>○保育士3年目の私にとっては、現場で見た事を、その後すぐに北野先生が説明して下さったので、こういう展開があるのだなと勉強になりました。</p> <p>○子どもの活動を予想して沢山の環境が用意されていた。その解説に、複数の助言者の話しが聞け、大変勉強になった。厳しい助言もあったが、色々な視点での意見が聞け、保育の奥深さ、面白さを感じた。</p> <p>○連携には色々な形があって良いが、やらされた活動とそうでない活動とでは、生まれてくるものが全く違うと実感した。保育園で異年齢も一緒に交流していたり、隣り合うコーナーの泥とシャボン玉が混ざり合ったりする場面が勉強になった。</p>
その他(園全体、保護者他)	<p>○小学校の先生と「子どもを見る目」を同じにする事に課題がある。</p>

「石けん盗られた」

平成27年5月21日 さくら組5才児

母親の迎えに気付き、5才児リオが部屋を出た。大きなカラスが園庭におり立ち、とび立った。「石けん盗られた」リオはそう叫ぶと同時に園庭へ飛び出し、一目散に奥戸へ向かいくぼみをのぞきこんだ。隠しておいた石けんは思った通り消えていた。リオは更に興奮し一大事を皆に伝えた。



「また盗られた」

次の日もカラスがやって来た。外遊びの片付けの時間を狙ったかのようにやって来て石けんを盗んで逃げた。

「また盗られた」リオを筆頭に今度はクラス中が大興奮である。

そして「カラスを捕まえよう大作戦」がはじまった。

1、目撃者の証言まとめ→2、カラスの生態調査→3、しかけ準備

↓ 作戦決行 5月26日

家族を巻き込んでの大作戦となりました。年長児も年中児も調査に基づいた品を準備して来ています。

- 石けん(盗られたから)
- ハンガー(巣作りに使うから)
- 油揚げ(油が好きだから)
- DVD(光る物が好きだから)

※本当は光る物が嫌いなのですが、子ども達はなぜか光る物が好きと主張し沢山のDVD他、指輪や可愛い飾りなども持ち寄りました。

↓ カラスがいつもおり立つ場所に仕掛けを置いたり、赤色が好きと言う情報から赤い机の上に置いたり、トンネルに隠れて紐を引っ張って捕まえようとしたり、置き方にも工夫が見られます。待つこと30分...

とうとうカラスは現れませんでした。でもカラスはどこからか子ども達の様子を見ていたのでしょうか。入室後、油揚げは完食されていました。カラスは賢いです。その後も子ども達とカラスの知恵比べはしばらく続きました。

〈考察〉

今回「カラスを追い払おう大作戦」でなく「カラスを捕まえよう大作戦」になったところに、子ども達の発想の自由さ、豊かさ、を感じる。

家庭でもその辺りに疑問を持った方もあったのだが、皆、子ども達の勢いに押され「捕まるといいですね」と仕掛けの準備に協力してくださっている。

石けんが子ども達にとっていかに大切な物であったかが、会話や行動の熱心さから感じとられる。その大切な石けんを盗んでいったカラスの事を調べていくうちに「不思議」と「賢さ」に気付いた子ども達は、調査、実験を繰り返しながら知識を広げていった。

＜ルンビニ保育園＞

公開保育について

	公開保育に参加して学んだこと	課題・今後に向けて
保育の環境	<p>◎施設の構造を上手く工夫され、園にあった方法で年齢や発達に応じた保育環境が整えられていた。</p> <p>◎子どもの気づき、発見を見える場に掲示しており、子どもたちの目によくとまっているのではないかと感じた。</p>	<p>◎保育環境を年齢に適したものと改善していくことにより、自分の持てる力を存分に発揮し、安心してあそびこめる子どもたちの生活を再度考えていきたい。</p>
子どもの姿	<p>◎継続性のある遊びの中で、子どもたちの自主的な行動がとても多く驚いた。興味・好奇心から始まるあそびの持続性、自分たちでつくりあげていくあそびの楽しさや充実感を感じた。</p>	<p>◎今、子どもたちの興味・関心がどこに向いているかを職員同士で話し合い、伝え合い、共有し合ってあそびを広げていけるようにしたい。</p>
保育者・教員の子どものかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)	<p>◎子どもたちの気づきや思いを静かに受け止め、必要に応じて言葉をそえて気づきを具体化したりしながら、一人一人の思いにそっておられた、『見守る』保育について考えることが多かった。</p>	<p>◎子どもの思いをよく聞き受け止め、今、何を感じ、何を求めているのかを大切に、柔軟に対応できる保育を進めていきたい。</p>
その他(園全体、保護者他)	<p>◎他園の保育を見る事で、沢山の刺激を受け、我が園の振り返りの良い機会となった。</p>	<p>◎今後『子ども中心の保育』のあり方を考えなくてはならないと感じている。</p>

ドキュメンテーションについて

	学んだこと	課題・今後に向けて
ドキュメンテーションの研修に参加して	<p>◎他園のドキュメンテーションを見る事で、様々な作成方法の違いを学んだ。又、保護者への伝え方、表現の仕方を勉強する機会となった。</p>	<p>◎どうしても伝えたい思いが出てしまい文字が多くなってしまふ。他者から見ても見やすさ、わかりやすさというポイントを考えていきたい。</p>
ドキュメンテーションを書いて	<p>◎ドキュメンテーションを書くにあたり、子どもの姿や言葉を意識して聞いたり、見る事で、子どもたちの様々な姿を知ることが出来た。又、子どもの発達段階の理解にも繋がった。</p> <p>◎一つのトピックスにおいて結果を書こうとしてしまふ活動から活動へのつながりが見えにくくなることが多いように思う。</p>	<p>◎完結することを意識せず、子どもの気づき、発見、広がりや次へのドキュメンテーションへと書けるよう工夫したい。</p>

3歳児



新聞あそびが大好きな子どもたち。大好きが子どもたちの意欲を掻き立てます。丸める、ちぎるの活動が、物に見立て作る喜びに変わり、その製作物にてごっこあそびへと発展してきました。そして、このあそびを通して、友達関係がはじまり、仲間意識が芽生えてきています。

4歳児



園の中で見つけたよもぎの絞り汁であそんだことをきっかけに草花で紙に色がつくことに興味を持ち始めた子どもたち。繰り返しの染物遊びの中で、染め方の工夫を知り、数人のグループで協力することを学び、いつか、自分たちで気付き、挑戦する姿がみられました。この経験が次なる子どもたちの好奇心へ繋がればと願います。

5歳児



4月から『虫』に興味・関心があつた子どもたち。1年を通して様々な虫と出会いました。その虫との出会いの中で子どもたちが気付いたことや感じたことを、友だちと共有し、新たな活動に繋がってきています。『ぼくたちの目は虫めがね』子どもたちの探求心・好奇心は無限です！

くみべのもり保育所

平成27年度 幼児教育・保育の質の向上研修 報告内容

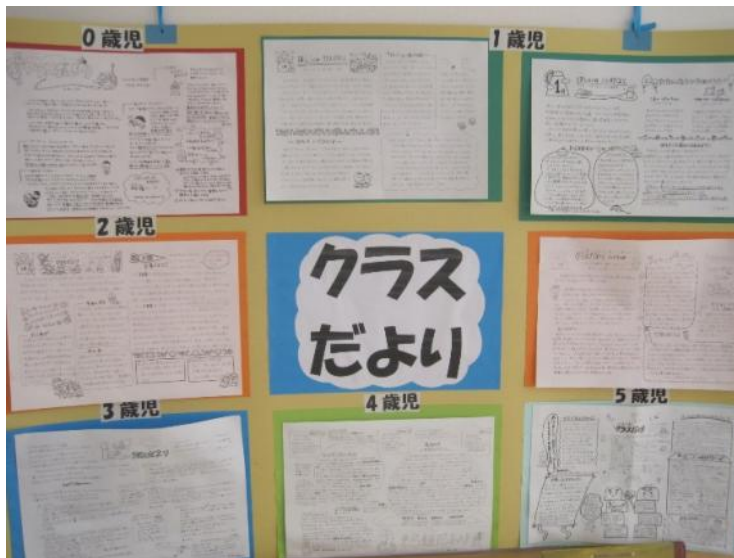
【 くみべのもり保育所 】

公開保育について

	公開保育に参加して学んだこと	→	課題・今後に向けて
保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・関心を起点にし、「どんな子どもに育てたいか」ねらいを持って環境を構成する。 ・子どもが考えたり他者と関わる事ができるよう準備しすぎない事も大切。 ・それぞれのあそびがつながっていくというイメージを持ち、相談したり協力協同を誘うような環境作りが大切。 ・教材の量や物の配置など、子どもの様子を見ながら子どもとの相互作用で臨機応変に作っていく。 ・砂や水等の自然物・積木など低構造のもの程、思考力、想像力がつく。 	→	<p>(課)子どもが思考し、自らあそびを作り出せるような環境作りを心がけているが、発達や子どもの興味・関心を見とり、適切な環境の場の設定やタイミング、工夫についてはまだまだ課題が見られる。</p> <p>(今)自分がしたいあそびをするため、自ら環境に働きかけているかどうかを洞察し、子どもをつなげ、あそびをつなげていくという事を意識した環境作りをしていきたい。</p>
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな教材・素材により子ども自身が考え、選ぶ事につながる。 ・保育士がねらっている所へ集めるのではなく、気になって集まってくるような形がよい。 ・気付いたことをまわりに伝え合い、知恵を出し合うような広がりがあるとよい。 	→	<p>(課)子ども主体の保育をすすめていく中で、意欲的にあそびをすすめていく姿や、相談したり、工夫する姿も多く見られるようになった。しかし個々に差は感じられる。</p> <p>(今)小集団やクラスの話合いの中で、あそびや発見・学びを共有していき、伝えたいききたいという気持ちを育てていく。</p>
保育者・教員の子どもの見方、声かけの仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士をつなぐことを意識してことばがけをする。 ・指示や命令ではなく問いかけたり、子どもが自分で考えられるようなことばがけが大切。 ・保育者の意図が強すぎると子どもの主体性が育たないが、意図がないと環境設定はできない。バランスが大切。 ・あそびが停滞してきたらテーマを与える事で子どもの意欲があがる。保育士がモデルを示す事も必要。 ・保育士が「〇〇君のどの姿がよかった」「〇〇ちゃんのどの気付きがよかった」と具体的に伝えていく事で、子どもの姿が変わってくる。 	→	<p>(課)子どもが考えたり、工夫できるようなことばがけや関わりは意識できるようになってきたが、ねらいを持って関わっていくという面では課題が見られる。</p> <p>(今)「こんな事に気付いて欲しい」「こんな風に育てて欲しい」と保育士が意図を持って関わる。子どもと子ども、あそびとあそびをつなぐという事を意識していきたい。保育士が、子どもをわかりたいという気持ちで、あそびの中の学びをみとっていき、発達の視点で見ていく。</p>
その他(園全体、保護者他)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・関心を出発点としたあそびの中での学びや育ち、そのあそびからつながっていく行事までのプロセスなどを日々のドキュメンテーションや園だより・クラスだより等でお知らせしている。 ・私達が子ども達をどう育てていきたいか、どんなねらいを持って保育しているのかを、保護者にも理解して頂くために、発信の方法にも工夫を重ねてきた。行事後のアンケートの様式も検討し、出来栄だけでなく、行事までのプロセスの中に子ども達が考え、工夫したり決めたりする要素がどれだけ入っているかが重要である事を知らせ、気付いてもらえるような内容にした。その結果…「自分達で作るプロセスが大切」「一人一人違っている衣装がよい」「皆で意見を出し合って作っている様子が伝わった」などの声が寄せられ、保護者自身が保育の中での学びや育ちを感じ取り、子ども主体の保育の良さを少しずつ理解して下さるようになった。保護者が子どもを見る視点や価値観が変化してきたと感じている。 ・発表会後の子ども達には、発表会までのプロセスの中で失敗した事も含め、自分達が経験した事を次のあそびへといかし、さらに発展させている姿が見られた。体験・経験の中で知ったり、学んだり、失敗したり、上手くいったりした事を、さらに次のあそびへとつなげ、展開していく力や意欲の育ちは、子ども主体の保育であるからこそだと実感している。 ・子どもを主体とした保育の大切さ、素晴らしさを職員一同、再認識している。 	→	

ドキュメンテーションについて

	学んだこと	→	課題・今後に向けて
ドキュメンテーションの研修に参加して	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをもとに保育について意見交流することで、この活動のどこに学びがあるのか、どう育ったのかなど、保育を見る視点を学ぶ事ができた。 	→	<p>(課)ワークシートを活用し、ドキュメンテーションの所内研修を少しずつすすめている所ではあるが、就労形態などの違いから全職員での共有はまだ難しい。</p> <p>(今)クラス単位や乳児・幼児ごと、グループごとなど職員間で共有できる工夫や、研修の持ち方を検討していきたい。今後もドキュメンテーションを用いた所内研修に取り組む中で、保育をふりかえり、その中で新たな課題を見つけ、次の保育をより良くしていけるものとした。</p>
ドキュメンテーションを書いて	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・関心を起点とし、保育者の教育的意図をしっかりと入れていく。 ・写真の羅列にならないようにする。 ・意図性と主体性をわかりやすく伝えていく。 	→	<p>(課)保育者のねらいや意図の記述が不十分であったり、子どものことば・結果・感想で終わってしまっているものもある。</p> <p>(今)保育者の教育的意図を入れていく事や発達をしっかりととらえ、伝えたい事をわかりやすく文字にする事を意識していきたい。</p>



◎ 日々のドキュメンテーションやおたよりで子ども達の育ちや、あそびの中の学びの姿をお知らせしています。

◎ 全年齢のクラスだよりや、ドキュメンテーションを送迎時にってもらえるように玄関に掲示しています。
全年齢のおたよりや、ドキュメンテーションをもらうことで、保育所での生活や子どもの育ちに見通しを持ってもらえるようになりました。



◎ 5領域を意識して子ども達の育ちや遊びの中の学びを、保護者の方に分かりやすく伝えました。

◎ 夏祭りまでのプロセスをドキュメンテーションに。そこからさらにあそびが広がり、つながっていく様子を、1つのドキュメンテーションにまとめてお伝えしました。

＜西乳児保育所＞

平成27年度 幼児教育・保育の質の向上研修 報告内容

【 西乳児保育所 】

公開保育について

	公開保育に参加して学んだこと	→	課題・今後に向けて
保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが思考し、遊びを作りだせるような環境づくりを心がける。 ・遊具や道具の位置(机の高さや距離など)によって遊びが変わり、繋がる。 ・低構造なものほど、思考力や想像力がつく。保育士が準備しすぎてはいけませんが、育てたい力を見通し、遊びのしかけはしておく。 ・異なった素材を準備することにより、比べたり試したり工夫する力が身につく。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児も、子どもの興味関心からの遊びを用意し、自分で選べる環境づくりをする。 ・身体や手先などの運動発達に応じて、必要な環境を用意することが大切。 ・月齢に応じて、遊びの準備を一緒にしたり、自分たちでもしたくなるような道具や素材を用意する。
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・(幼児)試したり考えたり友だちと協力して作り上げる場面があり、試行錯誤する姿や一緒に作るワクワク感、満足感が感じられた。保育や環境の工夫により、子どもたちの動き、目の輝き、声のトーンが違ってくると感じた。とても生き生きとしていた。 ・(乳児)手作りのバッグにブロックを乗せては立ち、落としてしまうことを繰り返していた1歳児。繰り返しているうちに、あれ?と考えているような神妙な表情をし、その後、そーっと立つように気をつけた。小さくても、経験から学んでいる。少し難しいことに挑戦する環境も大切。 <p>☆夢中になる遊びこそ学びがある。</p>	→	<ul style="list-style-type: none"> ・「やりたいけど思うようにできない」などの気持ちの経験も大切にする。その経験の中で子どもの願いがさらにふくらみ、少しでもできた時には「うれしいな、また頑張ろう。」という次へのエネルギーが生まれてくる。また、一緒に応援してくれる大人への愛着がより深まっていく。 ・乳児の時から、自ら周りの世界に興味を広げ、自ら発見し、自ら知らせようとしてくれる姿を、保育者は丁寧に受け止めていく。
保育者・教員の子どものかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが今何に興味を持っているかを常に考え、子どもを知ろうとする気持ちが必要。 ・常に子どもの気持ちに寄り添っていると肯定的な言葉がけや捉え方ができる。 ・子どもが試行錯誤している時に、子どもを助けてあげたい気持ちにもなるが、子どもに色々な体験や気持ちの経験をさせる為にも先取りはせず、そばであたたかく見守ることが必要。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇ちゃんほしかったのね。」「〇〇くん早く滑りたかったのね。」などと、気持ちを受けとめ、要求を代弁し、その上で言葉にして伝えることや、相手にも思いがあることを伝えていく。 ・泣いたり笑ったり怒ったり、充分自己発揮できるよう受けとめる。
その他(園全体、保護者他)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育や研修を通したプロジェクト型保育の学びや実践から、0歳からの教育の大切さを日々実感し、そのような意識が更に全職員に浸透してきたように思う。 ・保育者は、子どもが今、何に興味を持ち何がしたいのか知ろうとする姿勢を持ち、やりたいことが充分にできるよう関わったり見守ったりするようになってきた。 ・それによって、子どもが納得して笑顔いっぱいになり、時には泣いたり怒ったり、言葉や表情、態度で存分に自分を出している。 ・日々の子どもの様子を口頭やドキュメンテーション・お便りなどで伝えてきた結果、保護者の意識も変わってきた。一見困った行動(自己主張、取り合いなど)であっても、発達の過程であり、大切な経験と理解し、広い心で子どもに接して下さるようになってきた。 ・子育てに関心が持てない母親の子どもの見方にも変化が現れてきた。お迎え時、子どものエプロン姿を見て、母親が「エプロンして何をしていましたか?」と子どもの姿に目を向けて下さるようになり、友達のエプロンをして遊んでいるのを見て同じようにまねをしていたことなど、この年齢ならではの発達の姿も折りに触れて伝えることができるようになった。今後も、子どもたちの成長を伝えながら、保護者や職員同士が共に子どもの育ちを喜び合っていきたい。 		

ドキュメンテーションについて

	学んだこと	→	課題・今後に向けて
ドキュメンテーションの研修に参加して	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて読む人は、事実の捉え方が違う場合がある。だからこそ事実をしっかりと書き、わかりやすく表現することは大切だと思った。 ・グループワークで自分の意見を発言することによって、更に自分の保育を振り返ることができ、次の、子どもを見る目に繋がっていく。 ・他の先生方の意見を聞くことで、色々な視点があることに気づけた。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの様子や育ちについては、職員同士意見交換していたが、ドキュメンテーションを用いた所内研修がなかなかできなかったのも、今後は必ず定期的にしていく。
ドキュメンテーションを書いて	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとした子どもの様子(行動、言葉、指差し)など、その子の発見や気づきに目を向け、保護者に伝えることができた。 ・写真を見て、後で気づくことがあった。 ・他の先生の意見を聞くことにより、関わり方の参考になる。 ・保護者と子どもの育ちについて共有でき、コミュニケーションもとれるので、保護者の気持ちを知ることにも繋がった。 ・きっかけ、ねらいを明確にし、的確に子どもに育った力を表現する。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・日々は日誌型のドキュメンテーションを提示しているが、当日出すメリット・デメリットがあった。 ・デメリットは、内容の検討ができないまま提示するので、きっかけの部分や保育士の意図の部分の表現が不十分になってしまいがちだった。 ・ドキュメンテーションを見て、所内で意見交換をし、個々の書く力をつけていく。 ・ひとつつピックスでまとめた形式のドキュメンテーションも作成していきたい。

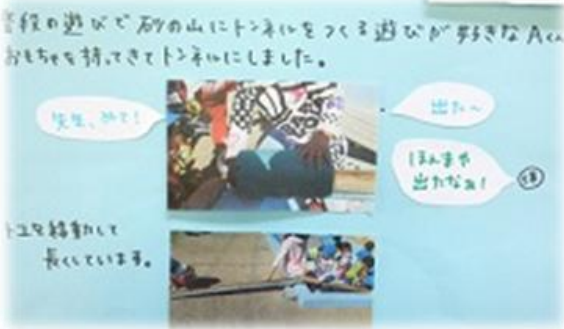


信頼ある大人の見守りの中、「のぼりたい!」という願いをもって、何度も何度も挑戦している0歳児。

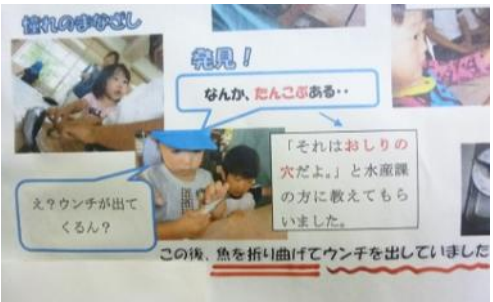


日頃ぶつかり合いの多い1歳児も、友だちのしている意味がわかって助けてあげたり、同じ動作を媒介として「いっしょ」を楽しんでいます。

見立てることで工夫につながり、遊びの世界が広がっています。



普段しているあそびが「トンネル」「長くする(プラレール)」に広がっています。



大きなお友だちの様子を見て興味をもってしようしたり、憧れの気持ちで真似たり...、優しくしてもらうことで、嬉しい気持ちや安心感などが生まれます。

親子ふれあいあそび 保護者の声

それぞれの遊びを始めるときは「これはなんだろう?」と考えているように見えました。ペットボトルにどんぐりをいれる時、私なら、一番上からころがしますが、色々な穴から入れてみたり、竹を持ち上げてまっぼっくりのスピードを速く?してみたり...真剣な表情が印象に残りました。
落ち葉のフールでは、お友だちがはしゃいでいるのを見て、自分もやっていいんだと思った様で、すごく楽しそうに遊んでいました。
先生方のアイデアいっぱい遊びを見て、お金をかけなくてもこんなに面白い遊びが出来るんだとあらためて思いました。

行事のねらいを意識したアンケートを出しました。

何に興味をもち、どんな遊びがすきか...
保護者にも見つめていただきました。子どもの興味や関心、好きな遊びや子どもの発見...などに気づかれた様子です。

＜相愛保育園＞

公開保育について

	公開保育に参加して学んだこと	課題・今後に向けて
保育の環境	<p>子どもの興味や関心をもとに様々な素材を置くスペースや出来上がりを飾る場所が確保されていた。</p> <p>戸外での公開保育は、まわりの自然環境を取り入れながら、子どもたちの発見や興味を引き出していけるよう、環境が整えられていた。</p>	<p>子どもたちがやってみたい作ってみたいと思える素材を設置。興味関心を見逃さない様にする。</p> <p>子どもたちの遊びをとらえ環境を充実させる事。又、発見や気づきに繋がるきっかけづくりをしていく。</p>
子どもの姿	<p>自分でやりたい遊びを見つけて遊び込んだり、使ったものを身に付けて活動を楽しんでいた。</p> <p>異年齢での遊びの中で、自然と大きい子が小さい子に遊び方を教えたり、満足いくまで好きな遊びをしていき発展させていこうとする姿もあった。</p>	<p>子どもたちが選んで遊べるコーナー遊びを多く取り入れていきたい。</p> <p>同年齢はもちろんの事、異年齢での遊びの中で自然と身につけていく力を大切に。自分を表現していく力を身につける。</p>
保育者・教員の子どものかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)	<p>子どもの気づきを受けとめ見守りながら、子どもたちに考えさせる言葉がけをされていた。</p> <p>興味・関心を大切に受け止め、また次に繋がっていけるよう働きかけたり、環境を充実させる中で子どもたち自ら発見できるよう促していた。</p>	<p>各年齢に合わせた遊びの展開。発見や気づきが持てるきっかけ作りをする。</p> <p>保育士間でのつながりを持ち園全体で子どもたちの遊びを見守り環境作りを進めていく。クラスの枠を超える事も必要。</p>
その他(園全体、保護者他)	<p>振り返りの時間を持つ。</p> <p>子どもたちの生活や遊びがどの様な力に繋がるのかドキュメンテーション等の掲示で保護者に伝えられていた。</p> <p>視覚的な生活環境での工夫がされていた。</p>	<p>少人数での振り返りが出来る様に。</p> <p>発達に合わせた生活や遊びは家庭生活が土台となっている事を保護者に理解してもらえるようにする。</p>

ドキュメンテーションについて

	学んだこと	課題・今後に向けて
ドキュメンテーションの研修に参加して	<p>乳幼児期の遊びが子どもたちの様々な成長にとってとても大切で次への繋がりになる事を保育士が細かくとらえ、又、保護者に発信していく事が重要。</p>	<p>園のおかれている環境の中で、各々に応じた方法で保護者への発信は必要。</p>